

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室では、充実した大学生活を送るために次のようなサポートを行います。

支援内容

個別支援

- 支援ニーズの把握
- 大学生活へのサポート
 - －スケジュール管理のサポート
- 修学状況の確認
- 学習場所の確保
- 教職員とのコミュニケーション支援
- 合理的配慮に関する検討

家族支援

- 修学状況の確認
 - －特性への理解
 - －合理的配慮に関する報告
- 本人への励ましとサポート
 - －生活面でのサポート
 - －体調管理のサポート

学生

コミュニケーション支援

- 昼食会
- 小集団活動(ランチ・ラボ)
- コミュニケーション・ワーク
- ピア・サポート活動

部局との連携

- 合理的配慮に関する支援会議
 - －授業における学習保障
 - －実験実習における配慮
 - －ゼミ内の環境調整
- 出席状況の見守り
- 個別の質問等への対応

学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室へ気軽にアクセスしてみよう!

相談の流れ

1 困ったことがあれば、まずは支援室に連絡してみよう!

支援室を訪ねる



学生会館2階

電話をかける



☎076-445-6910

メールする



hacs@ctg.u-toyama.ac.jp

2 どんなことで困っているか、相談員が話を聞きます。

3 今後の相談・サポートの方法を決めていきます。

4 支援室でのサポート開始!

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室
トータルコミュニケーション支援部門はこちらです!



五福キャンパス 学生会館



●連絡先

富山大学 教育・学生支援機構 学生支援センター



〈マークデザインコンセプト〉
モチーフはメビウスの輪。緑は「安らぎ」、青は「清らかさ」、黄は「明るさ」を表わし、学生、教職員、支援室が緊密に関わり合うことと、「オン」「オフ」ともに心身が安らかで、清らかな、明るい学生生活を送る心(ハート)の永続的なつながりをもたらす支援室の役割を、優しい色調で表現しました。

下記の場所でも相談を受け付けます。

- 高岡キャンパス
毎週火曜 9:00～17:00
- 杉谷キャンパス
毎週木曜 9:00～17:00

〒930-8555 富山市五福3190
TEL 076-445-6910 (FAX兼)
E-mail hacs@ctg.u-toyama.ac.jp



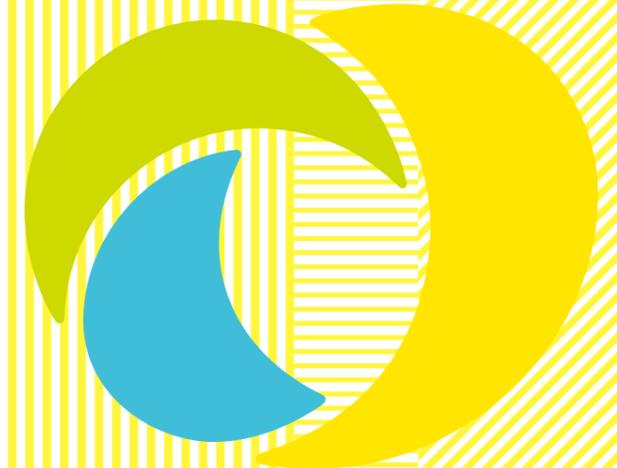
【支援室HPはこちらから】
本学公式ウェブサイトトップ▶キャンパスライフ▶当センター
(<http://www3.u-toyama.ac.jp/support/index.html>)

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室には、
身体障害学生を支援する「身体障害学生支援部門」もあります。

富山大学は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領を制定しました。
本学公式ウェブサイトトップページ▶大学紹介▶情報公開に掲載しています。
<http://www.u-toyama.ac.jp/outline/public/normalization/index.html>

富山大学 教育・学生支援機構 学生支援センター
アクセシビリティ・コミュニケーション支援室
トータルコミュニケーション支援部門
Total Communication Support Initiative

ひとりの私がいる。
ひとりじゃない私がいる。



私たちのミッションは、 トータル・コミュニケーション・サポートです。

学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室
トータルコミュニケーション支援部門では、
次のようなサポートを行うことをミッション(使命)としています。

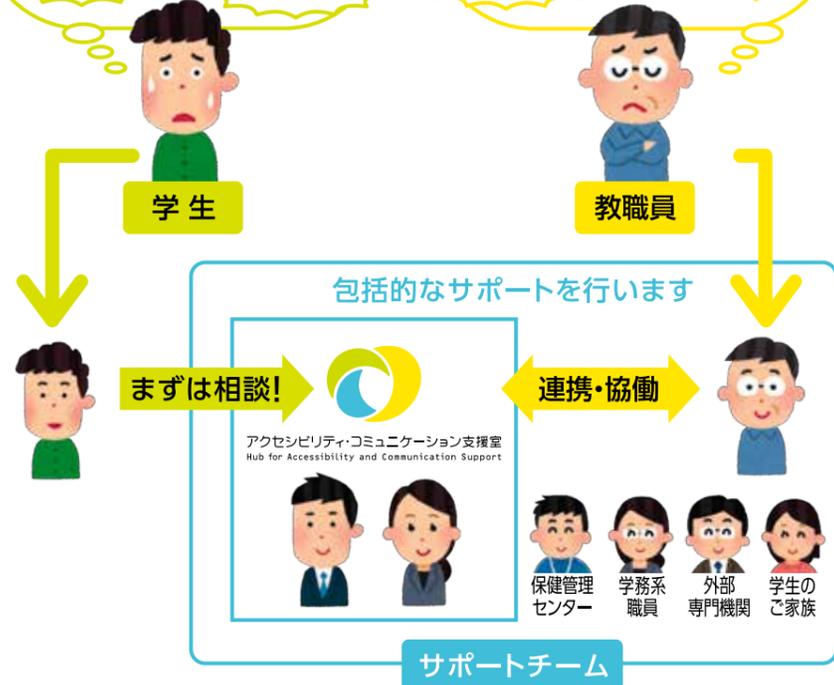
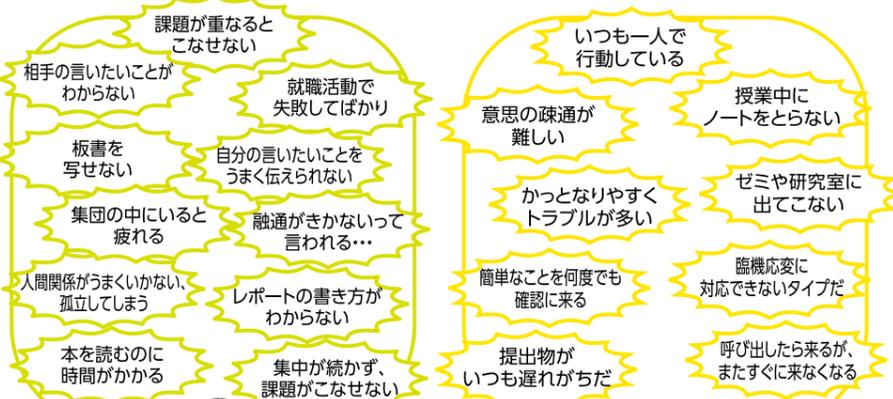
すべての学生の「社会的コミュニケーションの問題や困難さ」に焦点を当てた支援を「包括的(トータル)」に行います。

- 学生本人からの相談だけでなく、教職員やご家族からの相談も受けつけています。
- 個々のコミュニケーション・学修・就職活動等の問題や困難さに向き合います。
- サポートチームを個別に形成し、学生本人の同意のもとに支援に必要な情報を共有して、統一感のある支援を行います。
- 問題や困難さを整理して、解決や解消のための道筋や、実行に移すための方策を立てます。また、その実行そのものをサポートします。
- 学生を支援している教職員やご家族もサポートします。

こんな気持ちになったら・・・
アクセシビリティ・コミュニケーション支援室に相談してみよう!

どうしよう?困った!

指導の仕方がわからない・・・



このようなエピソードをもつ人たちにも・・・
アクセシビリティ・コミュニケーション支援室は強い味方。

自閉スペクトラム症 / 自閉症スペクトラム障害

Autism Spectrum Disorder



- ★ 言葉のニュアンスよりも文字通りの解釈に頼ってしまい、他人からすればとんちんかんなことを言ってしまう。
- ★ 曖昧なことが苦手で、急な変化にとまどうことが多く、新しい状況に適応するのに時間がかかる。



- ★ 自分の興味関心のある専門分野については、深く追求できる。
- ★ 機械的な記憶が必要とされる仕事や数的処理が必要な仕事は完璧にこなす。

注意欠如・多動症 / 注意欠如・多動性障害

Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder



- ★ 部屋や机の上が片付けられず、必要な時に必要なものが見つからないことが多い。
- ★ 意識しているのに時間に遅れたり、注意しているのに大事な約束を忘れて信用を失うことがある。



- ★ 従来の枠にとらわれない自由な発想や誰も思いつかないアイデアがひらめき、すぐに実行に移すことができる。
- ★ いったん集中すると、疲れ知らずで取り組むことができる。

限局性学習症 / 限局性学習障害

Specific Learning Disorder



- ★ 板書を写すなど、文字を書くのに時間がかかり、講義に耳を傾けることが難しい。
- ★ 文章の意味を読みとることに時間がかかり、試験時間内に書き終えることができない。



- ★ ディスカッション形式の授業が得意である。
- ★ 見たものを記憶していくのが得意。

発達性協調運動症 / 発達性協調運動障害

Developmental Coordination Disorder



- ★ 力の加減をコントロールすることが難しく、手先を使う作業を習得するのに時間がかかる。
- ★ ボールやラケットなど道具を使うスポーツは苦手である。



- ★ 苦手なことを改善しようと努力することができる。
- ★ 動作を分析したり補助具を使ったりして、コツをつかめばうまくできるようになる。

大学での支援は、
このように行っていきます。

支援者は、学生と教職員がお互いの理解を
深められるようメディエーターとしての役割を果たします。



学生と教職員、双方が納得する適切な配慮とはなにかを探求していきます。

合理的配慮の探求

- 合理的配慮・・・
- 特定の場合(個別の状況)において必要かつ適当な変更および調整
 - 均衡を失したまたは過重な負担を課さない

※「合理的配慮は、双方の建設的対話による相互理解の中で柔軟に対応がなされるものである」と、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針に明記されています。



中学生の時に、ディスレシアと診断され、書くことも苦手です。高校までは板書を写真撮影してもらって合理的配慮を受けていました。大学ではどのような配慮をしてもらえますか?

学生

読み書きの検査結果を参考に、どのような配慮が必要かを検討します。どの授業にも共通する配慮もあれば、授業の方法によって異なる配慮が必要な場合もあります。たとえば、印刷物を電子ファイル化し、読み上げソフトを利用する、あるいはスマートペン等の利用で録音を許可する等があります。授業担当教員とも話し合いながら、あなたに必要な配慮を考えていきましょう。



支援者



学期末は課題が重なり仕上がりが遅い。高校までは、担当の先生が細かく指示をしてくれていました。

学生

それでは、自分の手帳を使って自分のスケジュールを調整するところから始めてみましょう。来週までに、手帳を準備してください。



…後略

支援者

このようなエピソードがあてはまると思う人もいるかもしれませんが、日々の生活の中で著しい問題がなければいいのですが、一人でうまくいかない場合、気軽に支援室を訪ねてきてください。私たちは、あなたの困難さの陰に隠れているあなたの良さを見つけ出して、あなたらしく大学生活を送るためのお手伝いをします。

